

を受けなければならない。該部は、出版社に対して問題箇所を削除、修正することを条件として、漫画の出版を許可する。例えば、シンガポール版の『スラムダンク』は、日本の原作と異なる箇所が多い。漫画家の井上雄彦は、わざわざシンガポール版の『スラムダンク』の一部の絵を描き直した。ほとんどの場合は、シンガポールの出版社は勝手に日本漫画の絵に修正を加える。許可された作品の中にも、裸に衣服を描き足したり、身体の一部を隠したりしている箇所もある⁸⁾。一部の漫画は、最初から禁書とみなされ、シンガポールでの販売、出版、レンタルは一切禁止されている。アニメに対する検閲は漫画よりさらに厳しい。映画審査部ではすべての日本アニメを検閲する。合格した作品には政府のステッカーが貼られ、検閲の費用は店が負担する。ビデオCD一枚に対して約1ドルぐらいかかる。例えば、『課長島耕作』、*Crying Freeman* のような一部の人気作品は、猥褻な箇所が存在しているというだけで、輸入禁止のリストに入っている。大人向けのアニメはあまり入ってこないで、アニメを見る人は子供ばかりである。

影響

日本漫画とアニメはシンガポールの対日観、地元漫画の発展と商品文化に影響を与える。

第一に、日本漫画とアニメは、シンガポール人の日本に対する興味をかき立てる。シンガポール国立大学日本研究学科は、最近の二、三年、一年生に対して日本研究を専攻した動機について、アンケート調査をしているが、漫画とアニメをはじめとする日本大衆文化に興味を持っているからという答えが半分以上である⁹⁾。

日本漫画とアニメは、日本の姿を全て描き出しているわけではないが、シンガポール人にとって日本を認識する窓口の一つとなっている。例えば、『ドラえもん』の中で、ジャイアンがのびたをいじめる場面を見て、日本の学校にいじめ問題が存在することを知る。一部の作品（特に少女漫画）からも、日本の若者の愛情、友情、家庭、仕事に対する考え方を理解することができる¹⁰⁾。

第二に、日本漫画とアニメは、民間大使として、日本に対する親近感を与え、日本のイメージを改善している。戦後生まれの第二代、第三代のシンガポール人にとって、日本のイメージはドラえもん、ポケモン、キティちゃんのような夢の国である¹¹⁾。もちろん、彼らのほとんどは日本へは行ったことがなく、本当の日本を知らない。最近、あるシンガポール研究者の調査によれば、5分の1のシンガポール華人の若者は、もし来世生まれ変わるなら、日本人になりたいと答えている¹²⁾。それは、戦争を体験した反日意識を持つシンガポールの高齢者と対照的である。

第三に、日本漫画とアニメは、地元の漫画家に強いインパクトを与えている。アジア各国の漫画家のように、シンガポールの漫画家の多くは、日本漫画の影響を受けている。一部の地元の漫画家は、日本漫画の作風、ストーリー、雰囲気、技術などを模倣している。Asiapac および創芸両社が出版したほとんどのシンガポール漫画は、あまり日本漫画と変わらないと指摘されている。シンガポールで最も人気がある漫画家黄展鳴でさえも、自分の作品は日本漫画の影響を大きく受けていることを認めている。彼の一番好きな作品は、手塚治史の『鉄腕アトム』と、水木しげるの『ゲゲゲの鬼太郎』、藤子不二雄の『ドラえもん』である¹³⁾。

第四に、日本の漫画キャラクターは、日本のキャラクター商品の消費を刺激するだけではなく、シンガポールの会社の商品とサービスをプロモーションする際に、多く使用されている。例えば、シンガポール航空は、日本からの乗客にキティちゃんのグッズをプレゼントしている。シンガポールのマクドナルドも、2000年1月に、キティちゃんのプロモーションを行い、シンガポールの人々を大混乱させた。マクドナルドのキティちゃんのために、一時、三十万の人々が徹夜で長い列を作り、中にはけが人が出たり、喧嘩したりというような暴力事件も起こった。KFCも2000年に、ポケモンのプロモーションを行った。シンガポールテレコムは、多くのドラえもんとなればんだのテレフォンカードとキティちゃんのポケベルを販売した。高島屋と豪華客船は、セーラムーンのライブショーを行い、人気を集めた。